

#### ■フィリピン：エネルギー省 海洋温度差発電所の2015年運用開始を計画

地元紙によると、フィリピンエネルギー省は、アンティク県サンホセに計画されている出力10万kWの海洋温度差発電プラントに対し民間からの出資を期待している。海洋温度差発電は、海洋表層の温水と深海の冷水の温度差を利用して発電を行う仕組みで、同プラントは2015年の運転開始を目指している。なお、エネルギー省によると海洋温度差発電については、カリフォルニアに本拠を置くディープオーシャンパワー社が既に国内36地点を調査済である。海洋温度差発電以外に、波力発電についても、スリガオ市沖のヒナツアン水路や、サンベルナルジノ海峡（ルソン島南部とサマル島間の海峡）で既に調査を終えているという。